

## 【目次】

### 1. アーカイブ No.2

連載「日本労働会館物語」第 37 回 2012.05.02 発行の第 49 号に掲載

### 2. 九州電力・宮崎県支部 11 名が来館・見学

### 3. UA ゼンセン・マルエツ労働組合 19 名が来館、受講・見学

### 4. UA ゼンセン・流通部門・惟一塾(逢見直人塾長)12 名が来館、受講・見学

### 5. UA ゼンセン・専門店ユニオン連合会 10 名が来館・見学

### 6. 出張講演 UA ゼンセン流通部門・政治選挙戦術会議 15 名が受講

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

### 1.アーカイブ No.2

連載「日本労働会館物語」第 37 回 2012.05.02 発行の第 49 号に掲載

連載「日本労働会館物語」第 37 回

〈なぜ期成会はつぶされ、友愛会は生き残ったのか〉

今回は労働組合期成会と友愛会の類似点を挙げ、両者は血の繋がらない親戚みたいなもので、「労働組合期成会は日本労働運動の曙」、「友愛会は日本労働運動の源流」との評価を記述しました。しかし、期成会と友愛会の運命は結成後、大きく分かれます。期成会は数年で解散に追い込まれますが、友愛会は総同盟へと発展。戦後は総同盟として復活し、全労会議・同盟を経て現在の連合へと続いています。両者を分けたものは何だったのか、それが今回のテーマです。

『評伝 鈴木文治』を著した故吉田千代氏はかつて講演後の私的懇談の中で、友愛会が結成からしばらくの間、政府の弾圧を受けることなく組織を発展させていった理由に言及し、①友愛会の名称と穏健・着実な運動、②鈴木文治の東京帝国大学法学部の人脈、③鈴木文治が所属していたユニテリアン教会の人脈、の三点を挙げていました。

本当に友愛会生き残りの理由がこの 3 つにあるとしたら、労働組合期成会にはこれらの点が欠けていたのでしょう。期成会をこの三点に照らしてみると、第一に期成会の活動は穏健・合法でしたが、その名称が過激で政府をつよく刺激していたようです。「期成」とは「ある物事を必ず成就させようと互いに誓うこと」(広辞苑)ですから、労働組合期成会とは「労働組合を組織する会」と理解され、明治と言う時代に過激な名前であったことは明らかです。

また、創立者の人脈を比較してみると、期成会の中心人物である高野房太郎や片山潜は何れもアメリカ帰りの米国労働総同盟オルグとクリスチャンであり、それなりの人脈がいましたが、鈴木文治の東京帝国大学卒の人脈には及びません。

所属団体の人脈を見ると高野や片山らには、彼らを支える有力団体は思い浮かびません。

しかし、鈴木のパックにはユニテリアン教会があり、その人脈は多彩です。かつては福澤諭吉や金子堅太郎らがユニテリアンを支援していましたし、友愛会創立の頃は安部磯雄や海老名弾正、内ヶ崎作三郎らが鈴木文治を支えていたのです。

現在からみると組織の名称や東大法学部卒の肩書は、大きな問題ではないかもしれませんが。しかし、労働運動非合法の時代に先進資本主義国の労働組合が友愛会を名乗っていたことに留意すべきです。また、鈴木文治の東大人脈が官僚や知識人からの支援を得るうえで有効であったことは明らかです。さらにユニテリアン教会の人脈が、知識人や経済・産業界に生きる人々の知遇を得るうえで大きな力になったことも確かです。友愛会の顧問・評議員の顔ぶれがそれを示していますし、鈴木が最初に関わった日本蓄音機商会の労働争議にも彼の東大卒の肩書やユニテリアンの人脈が役立っています。友愛会役員への委嘱状が「友愛会会長 鈴木文治」ではなく、「友愛会会長・法学士 鈴木文治」と記されていたことも傍証となるでしょう。

## 2. 九州電力・宮崎県支部 11 名が来館・見学

2月4日(土)九州電力・宮崎県支部の皆様 11 名が来館、常設展「日本労働運動の 100 年余」、

\*第 1 部 労働運動前史—福澤諭吉とユニテリアン、惟一館—

\*第 2 部 戦前の労働運動 1897 年～1940 年

(1) 日本労働運動の曙 労働組合期成会の誕生 1897 年

(2) 日本労働運動の源流 友愛会の創立 1912 年

(3) 友愛会から総同盟へ 1912 年～1940 年

\*第 3 部 戦後の労働運動 1946 年～

\*第 4 部 友愛会、鈴木文治、松岡駒吉のメッセージ

を熱心に見学しました。

## 3. UA ゼンセン・マルエツ労働組合 19 名が来館、受講・見学

2月6日(月) UA ゼンセン・マルエツ労働組合の政策委員会 19 名が、講義「日本労働運動の 100 年余り」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を 90 分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性和今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。受講後は、展示室の見学と日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学し、記念撮影を行った。

皆さんとっても熱心に受講し、細かく見学した様子でした。

#### 4. UA ゼンセン・流通部門・惟一塾(逢見直人塾長)12名が来館、受講・見学

2月7日(火) UA ゼンセン・流通部門の伝承塾である惟一塾(逢見直人塾長)の12名が来館、「日本労働運動の100年余り」を受講。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を90分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。受講後は、展示室の見学と日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学し、記念撮影を行った。皆さんとっても熱心に受講し見学をしていました。

#### 5. UA ゼンセン・専門店ユニオン連合会 10名が来館・見学

2月10日(金)UA ゼンセン・専門店ユニオン連合会 10名が来館。常設展「日本労働運動の100年余」を熱心に見学しました。

#### 6. 出張講演 UA ゼンセン流通部門・政治選挙戦術会議 15名が受講

2月13日(月)~14日(火) 出張講演 UA ゼンセン流通部門・政治選挙戦術会議 15名が、演題「流通産別運動と政治活動の歴史と今後の課題」を聴いた。内容は、「友愛会創立以来、労働運動と政治とのかかわりの重要性」、「流通労働運動の政治の必要性とその始まりの歴史」、「政策制度の実現と政治」、「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。

-----**「人間の尊厳、進歩と発達のために」**-----

発行:友愛労働歴史館

責任者:藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール [yuairodorekishikan@rodokaikan.org](mailto:yuairodorekishikan@rodokaikan.org)

HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

-----**惟一館から128年、友愛会から110年**-----